

藤沢

2014年12月1日

第247号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・地球温暖化時代を考える
- ・大船フラワーセンター存続を
- ・新しい街 SST見学

茅ヶ崎市民発電所見学 ・放射能測定地

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

TEL/FAX 0466-87-4922

私たちはこのまま破局への道を歩み続けるのか？！

国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の統合報告書は世界の科学者達から「政治指導者に向けて出された提言」である。世界の気温上昇を2℃以内に抑えるには、今世紀中に温室効果ガスの排出量を「ほぼゼロにする必要がある」と発表した。国内には「2℃以内に抑えるのは奇跡に等しい」と、国際目標を2.5℃に緩めるよう求める声がある。IPCCは、2℃の目標について「困難だがまだ可能性がある」と言っている。科学・技術が予測を超えて進歩してきたことを考えれば、不可能とは言えない。

今度は政治家が応える番である。今年9月の国連気候変動サミットを起点に、アメリカのケリー国務長官は、「肝心な点は、地球が人間の活動により温暖化し、被害がすでに目に見えているということであり、その対策には野心的で、即時の行動が必要だということだ。イデオロギーや政治をめぐる議論で立ち往生すればするほど、行動しないことに伴う代償は大きくなっていく。この報告書が明確に示した科学の結果を無視したり異議を唱えたりする人は、われわれやその子ども、孫までを重大な危険にさらしている」と表明し、各国の政治指導者に対応の強化を求めている。

2℃未満に抑えるためにどうしたらよいのか？

もっと省エネと再生可能エネルギーの利用を進めることである。今月はペルー・リマでCOP20が、来年末のCOP21パリで2020年以降のCO2削減に向けた新しい枠組みの合意をめざす。20年度からの新たな制度では、各国が2100年まで自国の排出をゼロにする誓約をするべきである。

12月は「地球温暖化防止月間」である。12月13日(土)は「第19回藤沢環境フェア2014」が市民会館を会場に行われる。藤沢市の温暖化対策は低炭素都市をめざしている。CO2について、「1990(H2)年度比で2022(H34)年度までに-40%」をめざしている世界のトップランナーである。先日のIPCC第5次統合報告書を受けて、EU議会は2030年までに-40%をめざすと決定した。藤沢はこれよりも野心的。藤沢市では環境省関連の助成事業により「エネルギーの地産地消プロジェクト」があり、11月4日には藤沢市環境審議会が開かれ「エネルギーの地産地消プロジェクト」は動き出している。12月にはパブリックコメントが実施される予定である。今こそ、市民は行動を起こす時！！

政策決定者(各種議員)向けの要約では、2100年以降の気候変動、不可逆性、及び急激な変化:気候変動の多くの特徴及び関連する影響は、たとえ温室効果ガスの人為的な排出が停止したとしても、何世紀にもわたって持続するだろう。急激で後もどりできないリスクは増大する。21世紀末までの温暖化は、深刻で広範にわたる不可逆的な世界規模の影響に至るリスクが、非常に高いレベルに達するだろうと述べている。これに應えるのは政策決定者たちである。

(宮地俊作)

ミサゴ 川名清水谷戸にて(山名氏提供)



地球温暖化時代を考える 地球温暖化で食料生産はどう変わる？

標題の講座に参加した。11月1日、講師は林陽生さん（NPOシチイウォッチスクエア理事長）。

お話の流れとして ①地球温暖化曲線の生い立ち ②温室効果／異常気象の発生 ③地球温暖化の実態 ④コメの生産量の変化 ⑤2050年の天気予報 ⑥私たちに何ができるか…の順にお話しされた。

地球温暖化はIPCC 2007年に発表された変化によると、地球全体の地上気温、熱帯と中緯度帯の地上気温、地上気温と海水温度からなどグラフに表しているがいずれも過去30年間で急激に上昇しつづけている。

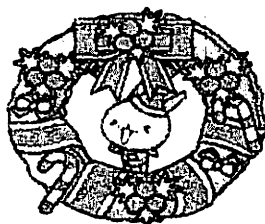
1960年から1980年にかけて0.2℃上昇、20世紀末には1.5℃～3.0℃上昇した。これは陸上での観測のみであり、今後の課題として観測点の移動、時刻の変更、都市化など気象以外の要因で生じる誤差の問題を指摘する必要がある。地上観測、SST（海水面温度）、MAT（海洋上気温）を比較すると、変化に相関が見られることから、この関係を利用して全球規模の気温を推定することが可能である。

最近の異常気象から火山噴火、生態系の変化（ヒズシカ セカ'ケ'モ）、地下の水没、地震、津波、異常高温、熱波、高潮、地下水の塩水化、巨大台風、漁場の移動など、2050年以降の将来、私たちの周りにはどのような影響が現れるか、影響を軽減するにはどうしたらよいか、そうした知見の集積が強く求められている。

ミカンの栽培に適した年平均気温は15℃～18℃で産地は西南暖地沿岸だが、2060年には南東北の沿岸部にまで広がる。高温により日焼け、皮が浮いてくるものなどで品質の低下を来す。リンゴも栽培地が北へ移動する。

米は、登熟期に平均気温が2.7℃を上回ると乳白化したり、粒が細くなる。九州地方で深刻化している。増収が見込まれるのは北海道や東北地方となり、関東や日本海側では減収となることが示された。

最後に再生可能エネルギーを使いましょう。若い人にも将来どうなるのかとの教育が必要であると述べた。（日比遥）



県立フラワーセンター大船植物園を これからも県直営で存続させるために

私たちは神奈川県議会に皆様からお預かりした22,465筆の署名をもって県直営としての存続を求めました。県議会では7月3日に当会の代表が意見陳述しましたが、採決の結果は「継続審議」となりました。また、当会の要望に対して県の回答は、「考慮します」との言葉はありましたが「民間移譲等の可能性についての検討」の方針はなんら変更されていません。

県は、財政の好転により緊急財政対策を終了させましたが、臨調行革推進の「県有施設見直しのロードマップ」の方針は残され、平成27年まで、県直営として存続できるかどうかの危機が継続することになりました。

これまでの52年間、植物園として貴重な機能を培ってきたことは、園としても大きな実績です。植物園は、各種条件を付けても「指定管理者制度等」にはなじまず荒廃が予想されます。県知事宛に直営での存続をお願いする署名を準備しました。

ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

なお、締切日は1月末日といたします。

署名第2弾！署名を黒岩知事に届けましょう

県立フラワーセンター大船植物園の存続を求める会

皆様にはすでにご案内のことと存じますが黒岩県知事は県の財政難を理由にその運営を民間に移譲することを提起しが黒澤県知事より提起され是非、訴えさせて頂きたく、文書郵送を失礼申し上げます。鎌倉市をはじめ近隣の幼稚園、保育園、小学校の遠足の目的地としてされて居ります県立フラワーセンター大船植物園が県の施設の見直しの対象とされ、只今「民間への委譲」が検討されて居ります。

民間の経営になりますと売上重視となり、入場料の値上げを始めとして様々な変化が予想されます。私たちはこれまで通り「県の直営施設」として続けて頂く事が何よりの県民の願いで有ると、県にお願いを続けております。

この度は県知事への要請署名を集めて居ります。是非とも存続署名にご協力を頂きたくお願い申し上げます。

問い合わせ先 鈴木信成 住所〒247-0075

鎌倉市関谷387-34 TEL090-9247-2841

新しい街……SST見学

F S S T (藤沢サスティナブル・スマートタウン)の見学を11月19日にしました。

辻堂の旧松下電器工場の跡地に造られたエコでスマートな暮らしをめざす街として注目された街です。

第1期はすでに100戸余りが入居済み、11月27日には商業施設のオープンが予定されていてタイミング良く特別の手配で見学ができました。

入口から見える戸建ての住宅にはすべて太陽光パネルが設置され、円形状に配置された家は風の通路や日当たりなどが考慮された配置となっていること、これから一年後、2年後と2018年度までエリアごとに集合住宅や福祉施設、教育施設と分けられて建設されるそうです。SSTマネジメント会社の方に親切な説明と案内を受け2時間余りがあっという間に過ぎ、内覧会は12月7日と案内がありました。

うらやましくなるような街全体の構想は素晴らしい、100年続くまちづくりを目指している壮大な構想には驚きました。

計画概念の「生活に欠かせないエネルギーが生まれる街」はエコと快適の両立でCO²を70%削減、生活用水30%削減、再生可能エネルギーの利用率が30%以上、安全安心の目標であるライフライン確保を3日間、という全体目標になっています。バス道路に面した下水道の上には太陽光パネルが並び、藤沢市との連携により災害時にも電気が提供できるコンセントがついていました。

国との連携も、国交省のCO²先導事業により、また環境省の低炭素価値向上に向けたCO²排出抑制対策事業として各4億円ずつ補助されている事業であり、藤沢市とも毎月1回の懇談を重ねているとのことでした。

くらし方を重点に住人の活動やコミュニティを重視した計画は藤沢の名所になることと思いました。世界中でこのようなくらしや生活を視点を計画されたタウンは注目されているとのことでした。

おもちゃの街のような円形の中央に配置された集会所は丸くモダンな建物で屋上が避難所にもなり、外は花壇がある広場でタウンの入口まで続いています。

E V自動車用のバッテリー充電器があり、電動自転車とともにレンタルができる、自家用車に頼らないシステムも備えられていました。

(日比)

〈藤沢エコネットニュース247号〉

茅ヶ崎のソーラーシェアリング見学

10月末、NPO 法人茅ヶ崎自然エネルギーネットワークが設置した市民発電所を藤沢エコネットのメンバーで見学した。駅北口の市民活動サポートセンターの屋根に、2009年に立ち上げた太陽光発電所の1号機7.77KWがあり、入り口にその時点の発電量が掲示されていた。中に入ると、センター内は省エネもおこなっていて、蛍光灯1本1本にスイッチがひもで垂れていて(キャノピースイッチ)、使うテーブル上の蛍光灯のみ点灯するようになっている。部屋は薄暗いがこれで年間約1万kWh節電になったというからすごい。

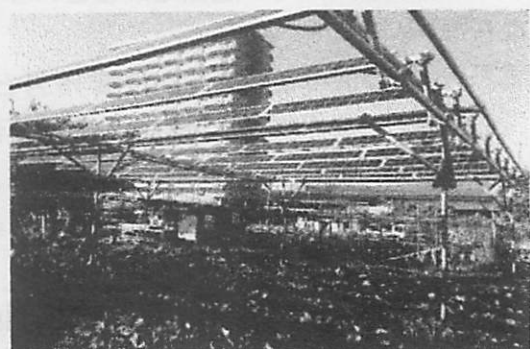
1号機は、年間約9600kwh発電していて電力会社と売買し、必要量の約80%をまかなっているようだ。

その後、車で第3号機のソーラーシェアリング発電を見学した。新駅予定地に、市の公園と市民農園があり、その農園の上に細形の太陽光パネル5.04KWが60cmの間隔を取って張り巡らされている。下に野菜が植えられ、太陽をたくさん必要とするものとあまり必要としないものと比べて育てられ、どちらも健やかに育っていた。農作物は100%の太陽を必要という訳ではなく、太陽光発電と分かち合って十分育つことを立証していた。

諸費用は茅ヶ崎市の基金やグリーン電力基金、新エネルギー導入促進協議会の助成等と個人寄付で賄っている。

環境講座や学校の環境教育にも力を入れていて、その茅ヶ崎エネルギーを見習いたい。(青柳節子)

→
農地の上に
ソーラー
パネル



SST中央部の戸建て住宅

地球温暖化は実態のない虚像

地球温暖化は、地球の地表付近の気温が 100 年に 1℃弱程度のスピードで上昇する現象である。空間的にも時間的にも平均した状態として定義する。一方、異常気象は、熱波・寒波や豪雨に代表されるように、極端現象であり概ね 30 年に一度程度発現する現象である。当然、異常気象は平均値の計算の母数に含まれている。この意味で、地球温暖化と異常気象は同時に起こっている。

地球温暖化を定義する平均値とは何だろう。時々刻々変化する気象を平均場で捉えても実態はない。つまり、年平均気温が 16℃だったとしても、16℃をもたらした気象は頭の中で考えられるだけで存在しない。多様な気象（こちらは実際に発現する）が混在した結果、16℃になったのだ。このように考えると、地球温暖化の予測はどのようにして行うのか、知りたくなる。実態の無い平均状態にどのような物理過程を適用して予測すればよいのか？といった疑問が湧いてくる。この種の疑問が生まれるのは当然のことだ。疑問に答える過程で、いくつか地球大気システムが介在するが、それらの説明は他に譲ることにする。

私たちは地球温暖化の問題に直面し、虚像に対峙するという現実を正しく受け止める必要がある。将来の負の影響を軽減する対策について真剣に考え知恵をしばることが肝要であり、虚像だからといって躊躇してはならない。

さて、10月に藤沢市を通過した台風 18 号と 19 号について、観測データの解析を行った。気象要素の時系列変化について、NP0 のホームページに掲載、これらは実態のある気象の特徴を示しており、今後どの程度の頻度で発現するか注目する必要がある。

http://citywatch-net.sakura.ne.jp/WP/?page_id=1348

(NP0 法人シティ・ウオッチ・スクエア理事長 林 陽生)

放射能測定値

畑の土を測定しました(11/12 遠藤地区)

①畑の上部の土1kg

30.6 Bq/Kg (基準値以下)

②畑の中(20cm)1kg

23.0 Bq/Kg (基準値以下)

ユズ (0.86kg 11/11 遠藤民家の庭から)
検出せず

ECONET INFORMATION

「未来の君たちへ！！ 藤沢 Eco2 まつり
～第 19 回ふじさわ環境フェア～」

とき 12月13日(土) 9:50-15:30

ところ 藤沢民会館第1,2 展示ホール 前庭

主催 藤沢市・未来の君たちへ藤沢 Eco2 まつり

実行委員会 問合わせ：環境総務課 ☎0466-50-3529

大気汚染 NO2 測定 12月4日(木)～5日

簡易カプセルで24時間測定します

測定希望の方はご連絡を 0466-87-4922



パブコメ募集 12月中旬から

藤沢市エネルギーの地産地消検討会ではパブリックコメントを募集します

エネルギーの地産地消に向け取り組みが始まりました。再生可能エネルギーの利用や脱原発へのご意見などを藤沢市へ出しましょう。詳しくは市広報で。

藤沢エコネットから

◎「エネルギーの地産地消をすすめる藤沢市民の会(仮称)」では 11/15 ワークショップを行い、広く検討を進めていくことを確認しました。次回は 12/9(火) 18:00-日本大学 7 号館で話し合いを行います。参加し、いっしょに考えましょう。どなたでも参加をお待ちしています。

◎「パワー・トゥ・ザ・ピープル」映画上映

デンマークやオランダの再生可能エネルギーへの転換を実現した人々のドキュメンタリー映画です

12月13日(土) 10:30-12:30 市民会館

会費・購読料の納入をお願いします

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 藤沢エコネット

(従来用紙の方法も利用できます)

会員募集＝年会費・購読料→3000円



◎事務局会議 12月10日(水) 15:00～

市民活動推進センター

《編集後記》 突然の衆議院解散で 12月14日には選挙が行われる。政府自民党の政策は原発再稼働と海外への売り込み、消費税増税の先送りなど国民の反対の声を無視して「アベノミクスを進めるしか道はない」と言っていたが本当にそうか？ COP 20 開催間近で温室効果ガス削減を曖昧にせず、目標に向けて再生可能エネルギーの普及促進にチェンジを争点にして欲しい。絶滅させいで！北極のシロクマを！ (H)